

HIGASHI COMPASS

- スピーチコンテスト
- 2AB研究活動
- キルト制作
- 保健室より
- 図書室より
- 毎日カップ 入賞
- 部活動試合結果

今を知る

校長 石橋 恵二

富士通エフサス社にCDEクラス生徒の絵画が社内のロビーや社員の憩いの場に飾られているので、会社のある武蔵小杉や横浜のみなとみらいに行くことができました。武蔵小杉駅に降り立つのは40年ぶりで、この場所にたくさんの高層の建物が並んでいることに驚き、みなとみらい駅周辺も近代的で独創的な建造物の集合体が港とうまくマッチしていて、さらに渋谷から東横線で横浜中華街まで一本で行けるようになっていいることにも感動しました。先日は、「日展」を見るために国立新美術館のある六本木に出かけました。大江戸線という地下鉄は実に心憎いコースを通っていると感心しつつ地上に出ると、見覚えのないビルがそびえ建っていました。東京ミッドタウンです。大学生のころに何回か行った六本木の感じとはまったく様変わりしていて、街というのはこうして開発され、そこでまた新しい文化が生まれて行くのだと感じ入りました。こうした変化はここ10年くらいのことであると思うのですが、私はそれを見たり、関わったりすることもなく時が経過していたのでした。

最近、あることがきっかけになって自家用車を買いました。14年ぶりのことです。高級車でもなんでもないので、今の車の装備や乗り心地は快適そのもので、ECOや安全性という点でも格段に向上しており、正直びっくりしました。10年ひと昔と言いますが、その間にさまざまな点に改良が加えられ、技術の進歩は私にもはっきりと実感できるものになっていたのです。では、街や鉄道の開発、車をはじめとした物の改良による便利さと快適さといった「今」を最近になって私が知ることになったのはなぜだったのだろうということです。いくつかの答えが見つかるのですが、一つは「安近短」で、それともう一つは「ゆとり」です。休みの時くらいゆっくりしたいと考えるのは誰でもそうだと思いますが、それが何でも近場で済ませてしまいたいと活動範囲を狭め、安く済ませたいという節約の思いが買うこと自体を躊躇させ、忙しいが故に意識も外に向けられないという状況を自ら作ってしまっていたのだと思います。日ごろは目の前にあることを片づけることで精一杯になりがちですが、井の中の蛙で近視眼的すぎる生活は楽しくもないですし、潤いも生まれません。今を生きるならば、今を知ることにもっと意欲的になってもいいのではないかなと思うようになります。反省をしたのです。

そのような折、田無のデパートの文房具売り場にいると、「目障りなんだよ。」という女性の強い声が聞こえました。声の先を見ると、なんと母親がお母さんの近くを駆け回っている我が子に注意したところでした。親が子どもに対してそのような言葉を使うのかと耳を疑い、これも「今」の時代なのかと落ち込みました。もう一度母親の顔を見直してしまいましたが、ごく普通のお母さんだったので、今度はいったい何がこのお母さんにとって、このような醜い言葉を使うようになったのだろうと考えました。日常に追われ、外に目が向けられず、心も乾いてしまっているようなら、思い切って新しくなったスポットに出向くのも方法ではないかと、その後には思いました。お洒落でハイセンスな場所ならば、心も洗われ、母親もあのような言葉は使わないでしょう。むしろ子どもと一緒に走り回りたくなる気持ちにもなるはずです。

どうか皆さんはご家族で心穏やかに年を越し、良いお年をお迎えください。

スピーチコンテスト

12月17日、第17回スピーチコンテストの決勝が行われました。今年度はスピーチの論旨・内容重視で審査が行われ、結果は1位・2位（同点2名）とも3年生の入賞となりました。日ごろの考えを深めて述べ、友達への考えも聞ける、良い機会になりました。以下に入賞者のスピーチを掲載しま

発表順	年組	発表者氏名	テーマ
1	1年	平川さん	友達とは 自分とは
2	1年	網木くん	孤独
3	1年	上條くん	日本国憲法
4	3年	リムザンさん	暗闇の中で光るために
5	2年	黒田(彩)さん	一つ一つの機会（*当日は欠席）
6	3年	孫くん	本当の意味での自由
7	2年	高橋くん	2年生になって成長したこと
8	2年	黒田(恵)さん	消えていく命
9	2年	関くん	時間と人生について
10	2年	加賀田くん	名前の重要性
11	1年	井上くん	慣れ
12	3年	深山くん	文化という盾
13	3年	安井くん	テニス
14	1年	小南さん	波
15	3年	元木くん	「人種」という名の壁

1位 3B 深山くん 『文化という盾』

2015年11月13日夜。日本時間14日早朝、フランスのパリ中心部で、劇場・レストラン・競技場など6か所を狙った、自爆テロ・銃乱射事件が起きました。128人が死亡、2500人以上が重軽傷を負ったこの事件は、「フランス同時多発テロ」と称され、世界中に報道されました。後に過激派組織「イスラム国」が、事件への関与を主張する声明を発表しますが、いつも通り生活を送っていた無防備なパリ市民を襲った行為は、とても許しがたい、卑劣なものだと私は思いました。

事件から数日後、閉鎖されていたパリにあるエッフェル塔は、営業を再開しました。その日の夜には、犠牲者への哀悼の意を表す為に、フランス国旗の青・白・赤、すなわちトリコロールの3色にライトアップされました。このライトアップを受け、地元フランスのペルラン文化大臣はインタビューに応じ、次のように述べました。「文化は我々にとって最大の盾だ」と。私は、この言葉に深い感銘を受けました。そして、ペルラン文化大臣に共感したのです。

文化はその土地で生まれた固有のものです。ですから、他の土地の人から見ても、納得がいかない場合があります。しかし、そこで互いの文化を尊重し友好を深めていけば、多くの人の心が一つになり、武力制裁などなしに、より強い力が生まれるということです。

今の世界は、各地で紛争や内戦が起きている、各国の関係もあまり良いものとは言えません。日本も他人事ではありません。中国・韓国・ロシアとの領土問題や、アメリカとの米軍基地問題など、政治に関して言うと、あまり良い関係を築いているとは言い難いものです。しかし、政治の関係と文化の関係は別にするべきだと、彼女の言葉を聞いて私は考えました。それに、彼女もそう考えていると思います。

「あの国との政治上の関係が悪いってニュースで聞いたから、あの国の人との交流は避けよう。」このような考え方は、先入観を伴った偏見です。そのような先入観や偏見を持つべきではない、と私は言いたいのです。一見、何の利益にも繋がらないようなことですが、このことが、一步一步、「平和」へと近づいていくのではないのでしょうか。「目には目を。歯には歯を。」のように、暴力に暴力で対抗しても、永久に平和は訪れません。むしろ遠のく一方です。ですが、私が一人だけで戦争を止めに行こうと言っても無理な話です。それは、数十人、数百人、数千人集まっても難しいでしょう。そう考えた時、私たち一般人には、暴力ではなく「文化」で対抗することが可能です。それは、色々な国と交流し、仲を深め、絆を深めていくという努力なのです。この地道な努力こそが大切です。このような視点で見ると、人類は二度とやっつけられない過ちを繰り返してきて、少しも成長をしていないと思いませんか。「花の都」という私たちのイメージを覆したこの事件を機に、多くの国との文化交流を推進して行って下さい。

「文化」は、「暴力」にも勝る最大の盾なのです。



2位 3A 孫くん 『本当の意味での自由』

みなさんは、自由と聞いて何を思い浮かべますか？自分の好きなように食べたり遊んだり、自分の思うことを言ったり。そう考える人が多いと思います。僕もそう考えていましたが、あることがきっかけで、本当の自由の意味はそうではないのではないかと考えるようになりました。そのきっかけは、今年の8月に岐阜県にある杉原千畝さんの記念資料館に行き、杉原さんについて詳しく知った事です。



杉原千畝さんは、第二次世界大戦中にヨーロッパのリトアニアという国の領事館に勤務していた外交官です。ある日杉原さんのもとに、たくさんのユダヤ人が集まってきました。当時ユダヤ人は、ナチス・ドイツの迫害から逃げて日本を通過して外国に行くために、日本を通過するためのビザが必要でした。彼らは、そのビザを発行してもらうために杉原さんのもとを訪れたのです。しかし、当時ドイツと同盟を結んでいた日本は、そのような、ユダヤ人を助ける行為はしないように杉原さんに命令しました。それでも必死に訴える何十・何百もの人々を見て杉原さんは悩みました。国の命令に従うべきか、それとも国の命令に逆らってもユダヤ人を助けるべきか。夜も眠らずに何日も悩み、苦しみ、導き出した答えは、国の命令に逆らってもユダヤ人を助けるというものでした。そして杉原さんは、その決断を自分の信念とし、リトアニアからの退去命令が出ても、列車が出発するギリギリまでその窓からビザを書き続け、六千人ものユダヤ人を助けたのです。資料館には杉原さんが実際に書いたビザが何枚も展示されていましたが、どれもそのような状況の中で書かれたとは思えないほど丁寧に書かれていたのが印象的で、一枚一枚に心が込められているのを感じました。結局、杉原さんは戦争が終わってから、このことが原因で外交官を辞めさせられ、苦勞することになりました。

杉原さんは、人間として何が正しいかということを考え抜き、そして、国の命令に逆らえば、どれだけの苦勞が待ち受けているのかを知りながら、それでもユダヤ人を助けたのです。

本当の意味での自由とは、そこに自分にとって不利益があったとしても、人として正しいと思える信念を貫き通すということだと、杉原さんのことを知って、僕は考えるようになりました。その自由と比べると、僕が今まで考えていた自由とはとても自己中心的なもので、そこから得られる楽しさも喜びも薄っぺらいものなのだと感じました。

僕が絶対に譲れないと思うのは、肌の色や宗教によって人を差別してはいけないということです。僕はそれを自分の信念のように思っていたのですが、杉原さんのことを受けて、それは単なる願望でしかなかったと知りました。どんなことも、自分の中で思っているだけのものは、信念でなく、ただの願望です。杉原さんのように、覚悟をもって、その願望を信念に変え、貫き通す。それが最も大切なことなのです。



2位 3A リムザン さん『暗闇の中で光るために』

先日私が体験した出来事をお話しします。ある日の夜、シャッターが閉じた店の前で年配の女性が座り込んでいました。気になって声をかけてみると、その女性は左足がマヒしていて、家へ帰る途中、ついに歩けなくなってしまったそうです。そこで、わたしは通りかかった中学生とともに体を支え自宅まで送ることにしました。あと少しで到着するということで、家族の男性がこちらに近づいてきたと思うと、突然男性は女性の手を引き、そのまま扉を閉めてしまいました。

その女性は自分の子供の家族とともに暮らしていました。しかし、病気をしてからだんだん見放されるようになっていってしまいました。人はよく、希望をもって努力を続ければ必ず道は開けるといいますが、努力しても彼女は家族の嫌がらせを止められないのではないか、一度ひどい運命を突き付けられてしまったら、生涯苦しみとともに生きる、その中に生きている価値などないのではないか、と考えてしまいました。しかし、その時の女性の言葉は、私の考えを覆すものでした。「周りには味方はいない。でも、自分を捨てたらいけないわね。」そう言って終始泣いていました。誰が見ても悲劇としか思えない女性の流す涙は、きれいに光って見えました、これを見て、人間の人生の目的は、与えられた環境の中で自分の精神を強く持って生きることであり、生きていくことこそに意味があるのだと気づかされました。

私達もこれから社会に出ていくと、数々の理不尽な壁にぶつかるでしょう。時には暴力でねじふせられ、従うしかなくなることもあるかもしれません。そんな時、そこには二つの道があると思います。一つ目は仕方がないことだと受け入れ、他人の思うとおりに身を任せること。もう一つは、それと戦うこと。一つ目の道にはきっと苦しみはありません。その代わりに、心を失い、いつか自らも他人を圧力で抑え込むようになっていくのです。それに対して戦うことを決意すると、理不尽な嫌がらせは続き苦しみも増していくでしょう。

あの日、出あった女性はどうしようもない現実と精一杯戦っていました。どうしたって、人は与えられた運命を変えることはできません。違う家に生まれていれば、違う国に生まれていればといくら願っても仕方がありません。これからは彼女は冷たい状況の中で生きていかなければいけないでしょう。しかし、彼女は戦いで自分の心を守り抜いたのです。運命は変えられなくても、その中で生き方を選択することはできます。私は彼女に自分の命を、自分で生きることの幸せを教えてもらいました。しかし世界には心を失い、平気で他人の命を殺める人がたくさんいます。つらい時でも私たちは心を見失ってははいけません。たとえそれがどんなに小さな力であっても戦う人の姿は美しく、それ自体がその人の人生、そしてこの世界をも輝かせる希望となるのです。





2AB 研究活動



学園祭では全員の作品を展示しました。このほど審査を行い、優秀賞と佳作を決定しました。12月24日には、優秀賞の生徒がABクラス全員を前にプレゼンテーションを行います。1年生は1月が提出になっていますので、2年生を参考にして、この冬休みによく取り組んでほしいと思います。保護者の方に向けては3月初旬に、1、2年生の「研究活動展示会」（優秀作・佳作ほかを展示）を予定しています。

優秀賞	2A	佐藤くん	会社(経済)と株の関係
		杉岡さん	洗濯の洗剤マスターになる
		吉田(明)さん	第5の味「うま味」について
	2B	遠矢くん	ドラッグストアの機能と役割
		畑野さん	市民農園 ～都市における農業の共存～
佳作	2A	小泉さん	家紋 ～家紋の種類からオリジナル紋を作る～
		早川さん	音楽と数の関連性
		吉田(梨)さん	かいぼりについて ～未来の池を考える～
	2B	猪狩さん	サザエさんのマンガ英訳と英語についての考察

キルト制作



CDE組の選択授業「技能〈手芸〉」では毎年、東京国際キルトフェスティバルのジュニア部門に作品を応募しています。これは日本だけでなく世界中のキルターが作品を出品しているキルト展で、ジュニアも全国各地からの出品があり小学生や中学校の家庭科部、個人やグループの作品等様々です。今年製作した「ふゆの森」という作品が2次審査を通過し、2016年1月21日(木)～1月27日(水)に東京ドームで開催される第15回東京国際キルトフェスティバルジュニア部門に入賞作品として展示されることになりました。

保健室より



●インフルエンザ、新型ノロウイルス●

昨年度、本校においてインフルエンザが大流行しました。今年は「新型ノロウイルス流行」とニュース等でも報道されており、この時期は感染症が心配される季節です。今現在中学校では、インフルエンザ、ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎、共に大きな流行もなく落ちついています。

今年度は早い段階から学校生活委員会を中心に「ハンカチを持ってくること」、「手洗い・うがい・消毒・換気」等、予防の為学校全体で取り組んでいます。特に換気については、定期的に学校環境衛生の点検・検査を行い“学校薬剤師”の助言のもと、24時間換気を稼働させることに加え、窓を開けての「自然換気」をして流行防止に努めています。

体調がすぐれない場合、発熱がある場合には、速やかに医療機関を受診し、自分の身体を休めてほしいと思います。学校は集団の場ですので、感染症であった場合には「人にうつる」という事が考えられますので、ご家庭での健康観察も引き続きよろしくお願いします。

●出席停止の期間と登校許可証明書●

インフルエンザによる出席停止期間の基準は「発症後（発熱の翌日を1日目として数え）5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで」です。医師の指示の元休養し、登校初日（部活参加初日）に医師が証明した「登校許可証明書」を必ず提出してください。※「登校許可証明書」は学園HPからダウンロードしてください。

●冬休みの過ごし方●

先日、4月から12月までの保健室利用状況をまとめ、保健室前に掲示をしました。集計によると、6月、9月と季節の変わり目に、体調不良を訴え保健室に来室する生徒が多くいました。規則正しい生活とよく言いますが、休みの日こそ食事・睡眠の生活習慣を整え、3学期を迎えてほしいと思います。

図書室より

2015年も残すところわずかです。今年4月から12月までの貸出数が多かったABクラスは2A（282冊）、2B（270冊）、3B（209冊）、CDEクラスは3C（85冊）でした。朝の読書や研究活動、教科における調べ学習など継続的に図書室を利用している様子が見られます。

その中でもマサチューセッツ工科大学の授業を収録した、ウォルター・リーウィン『これが物理学だ！』は理科が好きな生徒に人気の1冊です。また宮部みゆき『ソロモンの偽証』は映画化され、図書室でも予約待ちとなるほど多くの生徒に読まれています。



また2学期は図書活動委員が季節や学校行事をテーマとした本の紹介ポスターを作成し、図書室では新着図書と並べる作業や本の貸出を行うカウンター当番を行いました。返却された本を棚に戻す中で、本が種類ごとに並んでいることに気づき、自分の探したい本をすぐに見つけられるようになった生徒もいます。

武蔵野東中学校の図書室は、公立図書館と同様に同じ種類の本が0から9までの番号順に並んでいます。小説であれば9から始まる番号、洋書であれば8から始まる番号など、自分の読みたい本の番号を知ることができ、素早く本を探することができます。自分で本を見つけた時の嬉しさは読書の楽しみにつながると思いますので、ご家庭でも図書館を訪れる際には話題にしていだければと思います。

今学期は309冊の本が新着図書として入りました。ドラマで話題の池井戸潤『下町ロケット』の文庫版表紙は、本校の卒業生である武政諒さんがデザインしています。その他にも日本史に登場する有名人の「食」にまつわるエピソードをまとめた本やリクエストのあったお菓子作りの本などが棚に並びました。3学期も読書を楽しむ時間を大切にしていってほしいと思います。

毎日カップ体力づくりコンテスト 優良賞受賞



受賞者記念撮影

第29回毎日カップ「中学校体力づくりコンテスト」において、本校は全国のトップ39校以内に入る、「優良賞」を受賞しました。

全国から4,429校のエントリーの中、一次審査では各校の記録をもとに上位10%の学校にエントリーが絞られ、その後の二次審査は121校が通過、そして最終審査で、本校が「優良賞」に決定となりました。東京都内の学校で入賞したのは、本校のみです。

12月5日にTKPガーデンシティ竹橋にて表彰式が行われ、伊藤教諭と、生徒代表として前友愛会会長の元木君が出席しました。

＜毎日カップ体力づくりコンテスト受賞の実績＞

平成11年度	特別賞 (全国40位以内)
平成12年度	特別賞 (全国40位以内)
平成13年度	日本中学校体育連盟賞 (全国6位)
平成14年度	優秀賞 (全国14位以内)
平成15年度	特別奨励賞 (全国3位)
平成16年度	毎日中学生新聞賞 (全国4位)
平成17年度	優良賞 (全国20位以内)
平成18年度	優良賞 (全国15位以内)
平成19年度	優良賞 (全国13位以内)
平成20年度	優良賞 (全国14位以内)
平成22年度	優良賞 (全国14位以内)
平成23年度	努力賞 (全国41位以内)
平成24年度	努力賞 (全国42位以内)
平成26年度	日本中学校体育連盟賞 (全国6位)
平成27年度	優良賞 (全国39位以内)

審査は、3年AB組のスポーツテストの1年次からの3年間分のデータが対象となっています。女子については、3年間高いレベルで体力維持ができたこと、また男子については体力の3年間の伸び率が評価されました。学校生活全般においての継続した取り組みや、積極的な生徒の活動も評価の対象です。

表彰式にはゲストとして、水泳でロンドン五輪に出場した伊藤華英氏が出席され、記念講演が行われました。

12月の部活動試合結果

● サッカー部

小金井市育成大会 (12/13学芸大付属中)

1回戦 対 小金井二中 0-6

※ 1年生大会はサレジオ中、小金井東中と合同で参加

● バスケットボール部

第11回東京都私立中学校女子バスケットボール対抗戦

(12/20 日大三中)

1回戦 対 武蔵野女子中 37-31 勝

2回戦 対 吉祥女子中 8-46 負

3回戦 対 桜美林中 14-20 負

学校法人 武蔵野東学園
武蔵野東中学校

〒184-0003

東京都小金井市緑町2-6-4

電話 042 (384)4311

Fax 042 (384)8451

E-mail chugaku@musashino-

higashi.org